

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	上伊那地域への ACP 「物語られるいのち」の発信 ～あなたはここで、最期までどのように生きていますか～
演者名	村田 裕子
所属	上伊那医療生活協同組合

目的：当生協は、長野県南部に位置し 23 年前に設立。現在 22,800 人の組合員、8 億 8 千万の出資金、職員数 530 人の医療福祉複合体として、最期まで上伊那で安全・安心・信頼の医療福祉の提供をめざしている。高齢多死社会を迎え、長野県は全国 10 年先の高齢化である。その人らしく最期までどのような生きたいか。所長が法人倫理委員長を務める在宅支援診療所からの発信で、具合が悪くなったとき、食事が食べられなくなった時の治療方法や、積極的な治療をせず最期を迎える方法も選択肢となる等をわかり易く上伊那医療生協の ACP 「物語られるいのち」を作製、地域で学ぶ機会をもった。

実践内容：①地域の組合員や住民対象の班会 健康チェック＋「物語られるいのち」学習会
②健康祭り（1500 人）、県高齢者大会（300 人）、母親大会（200 人）にて 講演＋朗読劇～その人らしい最期とは～ 講演者は在宅支援診療医師

実践効果：

- *夫がガンで亡くなった事を思いだし最期をどう生きるのか考える機会となった。
- *死について家族で話合ったことはなかったが、夫婦で話し合いたい。
- *積極的な治療が当たり前と思っていたが、何もしない方法もあることを知った。
- *考え方も育ってきた環境も違う中、自分らしく生きる事を改めて考えたい。

考察：積極的な治療を行い救命することが第 1 の医療の時代から、その人らしい最期の選択肢の多様化(本人が希望し最善と認められるなら積極的治療をしない)が医学会でも提起されている。「在宅での終末期が可能な事」や「自分や家族の終末期を考える機会」を地域へ提供できた。時には揺れ動く思いに寄り添いながら、その人がその人らしく生きることをこれからも支援したい。